

第5回未来を拓く新たな茨城づくり調査特別委員会

これからの社会を生きるために
必要な力を養うには

20250730

独立行政法人教職員支援機構
荒瀬 克己

どんな力なのか？

これからの社会を生きるために

必要な力

学力3要素 学校教育法30条2項

学んで得た力	学ぶための力	学ぼうとする力
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

学んで得た力を、学ぶために活用していく。
多様なものに関心を持ち学び続ける。
そんな学ぼうとする力を持つ若者に育ってほしい。

探 究

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について
(答申) 2016(平成28)年12月21日中央教育審議会

第2部 各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性
第2章 各教科・科目等の内容の見直し

5. 高等学校における数学・理科にわたる 探究的科目

p.151～154

(1) 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた
教科等目標の在り方

<抜粋>

①新科目の設置の背景

○ 探究的な学習は、学習に対する興味・関心・意欲の向上をはじめ、知識・技能の着実な習得や思考力・判断力・表現力等の育成に有効であると考えられ、高等学校の数学及び理科の分野における探究的な学習を中核に据えた科目として、「数学活用」及び「理科課題研究」が設定されているが、大学入学者選抜における評価がほとんど行われないことや、指導のノウハウが教員間に共有されていないことなどもあって、高等学校における科目の開設率が極めて低くなっている。

○ 現在、我が国は様々な課題に直面しており、これらの解決手段としてイノベーションに大きな期待が寄せられているが、研究者には、深い知的好奇心や自発的な研究態度、自ら課題を発見したり未知のものに挑戦したりする態度が求められている。また、革新的な価値は、多様な学問分野の知の統合により生まれることが多く、従来の慣習や常識にとらわれない柔軟な思考と斬新な発想によってもたらされるものである。

②新科目の基本原則

○ このような方向性を踏まえつつ、アイディアの創発、挑戦性、総合性や融合性等の視点を重視しつつ新科目の基本原則については、以下のとおり整理することができる。

- ・ 様々な事象に対して知的好奇心を持つとともに、教科・科目の枠にとらわれない多角的、複合的な視点で事象を捉え、
- ・ 「数学的な見方・考え方」や「理科の見方・考え方」を豊かな発想で活用したり、組み合わせたりしながら、
- ・ 探究的な学習を行うことを通じて、
- ・ 新たな価値の創造に向けて粘り強く挑戦する力の基礎を培う。

(2)新科目の概要

①基本的な構成

○ SSHにおける実践の状況等も踏まえ、新科目においては、生徒が探究の過程全体を自ら遂行できるようになることを目指し、その基礎を学ぶ段階(「理数探究基礎」と、それを活用しつつ実際に探究を進める段階(「理数探究」)の2段階で構成することが適当である。

○「基礎を学ぶ段階」では、探究の過程全体を自ら遂行するための進め方等に関する基礎的な知識・技能、新たな価値の創造に向けて挑戦することについての意義の理解、主体的に探究に取り組む態度等を育成することが重要である。

○「探究を進める段階」においては、基礎で身に付けた資質・能力を活用して探究の過程全体を自ら遂行し、結果を取りまとめ、発表するものとする。その際、探究の成果としての新たな知見の有無や価値よりむしろ、探究の過程における生徒の思考や態度を重視し、主体的に探究の過程全体をやり遂げることに指導の重点を置くべきである。

②指導に当たって留意すべき点

○ 常に知的好奇心を持って様々な視点から自然事象や社会事象を観察し、その中で得た様々な気付きから疑問を形成させるようにすることが必要である。

○ 探究の課題の設定に当たっては、生徒の主体性を尊重しつつ、数学や理科における手法により探究が可能な課題となるよう適切な示唆を与えることが必要である。その際、生徒が既に身に付けている手法を前提に、これを適用できる課題を探すような順序とならないよう留意しつつ指導することが求められる。

③新科目の**評価**の在り方について

○「理数探究」の評価に当たっては、探究の成果における新たな知見の有無や価値よりも、探究の過程において資質・能力をどの程度身に付けることができたかや、探究の過程全体を俯瞰的に捉え、自らがどの位置にいるか、どこで間違ったのかなどが説明できるようになっているかという点を重視すべきである。

○ 探究の過程における観察・実験の内容やその中で生じた疑問、それに対する自らの思考の過程などを「探究ノート」等に記録させ、自己の成長の過程を認識できるようにするとともに、評価の場面でも用いることが重要である。

また、「探究ノート」等を通じて生徒の独創的な思考や探究の過程における態度を評価するほか、報告書や発表の内容、発表会における生徒による相互評価や自己評価を取り入れるなど、多様な評価方法を用いるとともに、複数の教員による複合的な視点で評価することが必要である。

④教育環境の充実等

(校内体制)

○ 数学及び理科の教員を中心に全校的な指導体制を整えることが必要。「理数探究」の指導に当たっては、1クラスの生徒に対して複数の教員が指導。

(教材の提供等)

○ 探究の進め方等に関する基礎的な知識・技能、新たな価値の創造に向けて挑戦することについての意義の理解、研究倫理に関する基本的な理解など、「理数探究基礎」における学習内容を適切に指導。

(教員の養成・採用) (施設・設備等の充実)

(大学、研究機関、企業等との連携)

総合的な学習の時間
総合的な探究の時間

中教審の動き

学習指導要領の着実な実施に向けて

2021(令和3)年1月26日

答申

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

2021(令和3)年3月12日

諮問

「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について

2021(令和3)年11月15日

特別部会
審議まとめ

「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて

2022(令和4)年12月19日

答申

「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～

- ・更新制の発展的解消
- ・「研修履歴」制度への移行

2024(令和6)年12月25日

諮問

多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について
初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について

令和3年答申

ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指している。

学んで得た力を、学ぶために活用していく。
多様なものに関心を持ち学び続ける。
そんな学ぼうとする力を持つ若者に育ってほしい。

自立した学習者（令和3年答申）

令和4年答申

個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒の学びのみならず、教師の学びにも求められる命題である。つまり、**教師の学びの姿も、子供たちの学びの相似形である**といえる。

学び続ける教師を育てるための環境整備

A bronze sculpture of a standing figure holding a torch, surrounded by other figures, set against a building with columns. The sculpture is the central focus, with a tall, slender figure standing on a base, holding a torch aloft. Below this figure are several other figures in various poses, some appearing to be in motion or labor. The background is a building with large, fluted columns and a dark, patterned door.

ありがとうございました
学校を豊かな学びの場に